

賛助会員訪問記

株式会社 東栄科学産業 訪問

ホームページ : <http://www.nims.go.jp/>

2016年10月31日13時30分～15時30分、株式会社東栄科学産業（宮城県名取市）の名取工場、技術部を高野良紀総務理事、押木満雅事務局長および杉村比登美事務職員の3名で訪問した。JR名取駅（仙台より東北線で約14分）より車で15分ほどの少し紅葉の進んだ丘陵の谷間にある工業団地と宅地開発された一角に名取工場、技術部があった。山城智万 社長、技術部磁気製造課 内海良一 課長および佐藤茂行 課長代理に應對して頂いた。山城社長から会社の概要、事業内容などを、また佐藤課長代理より製造装置や国家プロジェクトとの関連などの説明を受けた。

東栄科学産業は、1982年に仙台市で理化学機器商社として設立された。1995年に仙台市に本社工場を構え、翌年より小型真空装置などの製作を開始しさらに、2000年より磁気関連設備の製作を開始した。東日本大震災（2011年3月）で建屋が被害を受け、交通の便が少し悪いが地盤が強固な岩盤で県が廉価で提供してくれたこの地に名取工場を新設した。1995年当時、東北大学の先生方からの要請によりスパッタ、蒸着実験装置などの製作を開始した。また、2000年より、磁石製作技術をコア技術とした磁気関連装置は社内設計、関連会社部品加工および社内組立のラインで先生方の難しい要求に応えるべく開発製造している。振動試料型磁力計（VSM、第4回みやぎ優れMONO受賞）は後発メーカーなので小型、空冷、低価格を特徴として売り出している。開発製造のビジネス形態では、顧客の要望にどれだけ添えるかが重要であり提案力が要である。市場調査→技術開発→受注活動→設計製造→サービス→市場調査の一連のサイクルを絶え間なく続けて行く事が肝要であり、多くの担当が顧客との密接な関係維持に心掛けている。その結果、多くの国家プロジェクトに参画することが出来、独自の測定装置提案や製作を手掛けている。また、理化学機器メーカーの代理店を行っているので、メーカー測定器に独自の改造を施し出荷する事が出来るという利点もある。今後、ますます進展する磁気関連分野に期待するとともに、自動車、バイオさらに東北放射光施設などの領域での計測機器に業態の拡大を期待している。などの説明があった。

会議室での説明の後、内海良一課長の工場を案内していただいた。2階には設計室、1階にはデモ室及び製作室があった。デモ室では3次元空間磁界プロファイル装置や高周波磁性薄膜評価装置などを見ることが出来た。製作室では、つい先日多くの装置が出荷したばかりとの事であったが、床に黄色の枠線で区切られた区画で幾つかの装置が組立、調製中であった。現場の声として、若い技術者への磁気に関する学術的知識教育が今後の継続的発展の為の提案力に繋がりに重要と話された。その点につき、学会のサマースクールや初等磁気工学講座などを有効に活用されてはどうかと話した。

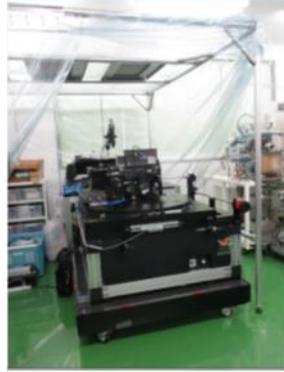
この訪問を通して、顧客の難問に近い要望に応えるべく技術開発・技術提案を行って、未知の分野にチャレンジして行こうとする経営陣と技術陣の心意気の両輪がこの会社の原動力だと感じた。また、技術陣の提案力を常に強化し開発の歩みを止めないためにも若手

賛助会員訪問記

教育に力を入れていることを伺って、ものづくりの基本を見せていただいた気がした。
JR 名取駅前にあるサッポロビール工場で一杯飲みたいところを堪えて帰路に就いた。



3次元空間磁界
プロフィール装置



高周波磁性薄膜評価装置



取材風景



玄関で